

# Wish

ユニセフ兵庫ニュース

vol.50  
 2016年9月号



2002年の創刊号から15年。Wishは50号を迎えました。

## CONTENTS

### EVENT FOCUS

2-5

**子どもの未来を考える。**  
 ユニセフ国際セミナー / 第1回国際理解講座

6-7 **活動ファイル**  
 2016年5月～9月

8 **お知らせ**

## Event Data イベントデータ

日時:8月6日(土)

会場:コープこうべ生活文化センター(神戸市)

参加者:58人

EVENT  
FOCUS

# 子どもの未来を考える。



はじめに、子どもの人権ファシリテーターの浜田進士さんは「なぜ、今、日本の子どもの貧困が取り上げられるのでしょうか。その原因や背景に何があり、どんな支援をしていったらいいのでしょうか」と、問いかけました。

## 貧困ってなんだろう

まず、グループに分かれて、「貧困」という言葉から連想できる言葉をあげてみました。その結果、学校へ行けない、進学できない、仕事がない、ワーキングプア、格差な

どの色々な言葉が浮かびあがりました。

貧困には、開発途上国で見られるような、1日の収入が1ドル以下など、誰が考えても貧しいという絶対的貧困と、先進国で見られるような、その国に暮らす人にとっ

## ユニセフ国際セミナー

いっしょに考えよう 子どもの明日

# 日本の子どもの貧困



EVENT  
FOCUS

国連はすべての国から、貧困をなくすことを目指しています。

ユニセフは、日本の子どもの6人に1人が貧困状態にあると報告しました。

このセミナーでは講演や事例報告を通して、子どもの権利を奪う貧困の現実とその影響について考えました。

子どもの時代を奪ってしまう紛争、貧困、災害など。世界の子どもたちが自分の力で、よりよい未来をつかむために、私たちに何ができるでしょうか。

## ゲストのお話

子どもの支援に関わられているゲストにもお話を伺いました。



**こくさいひろば芦屋**  
学習支援員 **谷村 洋人**さん

私が「こくさいひろば芦屋」で学習ボランティアを始めて7年になります。芦屋市立の小学校の一教室で、外国にルーツのある子どもたちや大人のための日曜教室や夜教室で日本語学習をしたり、文化発信のイベントをしたりしています。

「なんで、芦屋に支援の必要な子どもがいるの」と、よく聞かれます。ここに来る子どもたちの悩みは学校へ行きたくない、日本語がわからない、日本人と違うと比較されるなどです。ひとり親家庭の子どもが多く、親は学校から配布されるプリントさえも読めません。大きな問題には高校進学があります。

私は、ここには貧困の最たるものがあるかもしれないと思っています。

### 団体紹介

#### こくさいひろば芦屋（芦屋市）

2006年発足。芦屋市立の小学校の一室で、外国にルーツのある人たちのために日本語学習などの学習支援や、文化発信のイベントを行っている。Facebookで最新情報発信中。

**みんなの家**  
代表 **裴 紀代美**さん

子育て中は仕事、家事、子どものことなど目の回る忙しさを経験しましたが、地域の人に助けられました。私は、お母さんの忙しさを少しでも解消できる居場所にと、3年前に小さな空き家を利用し「おにぎり会」をスタートしました。

この間をふり返ると、シングルマザーの家に育ち落ち着きのなかった子ども、お母さんとけんかして家を出した子ども、今は、書道教室に参加し、ボランティアママ手づくりの夕食をいただき元気に帰っていきます。少しずつ自分に自信を取り戻しています。これからの「みんなの家」は、すべての人の出会いの場、子どもたちの生き方を少しでも変えられる場になればと思います。

### 団体紹介

#### みんなの家（神戸市）

裴さんの実家を地域の子どものための夕方の居場所に開放し、2013年に開設。おにぎり会や書道教室などを行っている。子どもたちだけでなく障がい者や高齢者の方も集まり、地域のみんが生き生きできる場として機能している。

## Profile 講師プロフィール



はまだ しんじ  
**浜田 進士**さん

自立援助ホーム「あらんの家」運営（ホーム長）  
子どもの権利条約総合研究所関西事務所長  
元関西学院大学教育学部教員 宝塚市子ども人権擁護委員（子どもの権利オンブズマン）

### 団体紹介

#### 自立援助ホームあらんの家（奈良市）

義務教育を終えた15歳から20歳未満の子どものうち、児童養護施設等を退所したものの帰る場所がない、虐待や貧困などの家庭の事情で安心して生活できる場所のない子どもたちが、働きながら自立に向けて共同生活する場。2013年開設。Facebookで最新情報発信中。



課題に取り組むいろいろな世代の参加者

て当たり前のものが奪われているという相対的貧困があります。そして、日本での相対的貧困率は世界先進国の中で4番目に高く、子どもの6人に1人がその状態にあり、ひとり親家庭に集中しています。

われは、他者を受け入れようとする力、つながろうとする力、生きぬこうする力があります。子どもはチカラを持っているのです。貧困によって、安心して過ごせる居場所や人々の選択肢などが奪われた子どもたちは、本来のチカラを発揮することができません。

虐待体験によって人間関係をうまく築けない青年たちは、悪態をついたり暴力をふるうこともあります。だからこそ、あらんの家では『おかけり』と迎えるのです。

### 自分のことと考えるこそ

所得格差の問題や数字が出ると、自分は該当しないと当事者でないとかいった分断がおきますが、自分がその延長線上にいると考えることが問題の解決には大切なことです。

学校内外で多様な人と関わることでできる居場所があること、子どもと向き合い、きつちり聞いて受け止め応えてくれる一生懸命な大人がいることが必要です。

次に、再びグループに分かれて、開発途上国のバンングラデシユと日本の、ある40歳男性の暮らしを比較しながら幸福度について考えました。その結果、幸福度は、国の状況によっても個人々人によってもその感じ方は違うこと、また、貧困というのはお金がない、物がなくということだけではないことも分かりました。

「豊かさ」の反対は「貧困」です。貧困を子どもの権利から考えると、その国のみんなに当たり前にある権利が奪

\*相対的貧困率：世帯収入から子どもを含む国民一人ひとりの所得を仮に計算し、順番に並べたとき、真ん中の人の額（中央値）の半分（貧困線）に満たない人の割合。

## Voice 参加者の声

○貧困というのはお金がない、物質的に困っているということだけだと思っていた。家庭内暴力によって精神的なショックを受けている子が伝えようとしていることに耳を傾ける必要性がある。また、その子たちに向上心が芽生えるためにはお金だけではどうにもならないのだということも知った。（13歳 中学生）

○私は普段子ども目線で生活してきましたが、大人の方がどのように考え、子どものことを思っているか、知ることができる新しい機会でした。また、「子どもの貧困」はどのようなものか、どんな影響があるかを知りました。これから、私は「子どもが子どもにできること」を探していこうと思います。（16歳 高校生）

アフリカに住む早川千晶さんと日本に住む永遠瑠マリルイズさん、  
アフリカの子どもたちに寄せる<sup>おも</sup>想いはともに同じ。  
お互いを尊敬し合うお二人の顔合わせが今回初めて実現しました。

## Event Data イベントデータ

日時：4月23日(土)  
会場：コープこうべ住吉事務所  
参加者：72人



はやかわ ちあき  
早川 千晶さん

1966年生まれ。18歳から世界放浪の旅を始め、アフリカと衝撃的な出会いをする。ケニア・ナイロビに定住して28年、ケニア人と結婚し、現在は子ども2人、孫1人。

1999年から友人リリアンが始めたマゴソスクールに関わるようになり、現在は別の村で子どもの家(ジュンバ・ラフト)の運営もしている。日本でのアフリカトーク&ライブ、アフリカスタディツアーのコーディネーターなどを通して、アフリカの魅力を伝えている。



ケニア



## マゴソスクール

ケニアの首都ナイロビの中心から車で10分ほど離れた川沿いの湿地帯の約2.5kmに、約100万人が暮らしているケベラスラムがある。そこにある幼稚園、小学校と職業訓練所、作業所。約600人の生徒たちはそれぞれ困難な状況にあり、大人も含めた約40人はそこで暮らしている。



01



02



03

- 01 楽しい給食の時間  
02 手芸品を作っている作業所、右がリリアン  
03 マゴソスクールの子どもたちとスクールOBの先生

早川さんは子どもの時に満州からの引き揚げの話や祖父母から聞き、どさくさの中でも互いに助け合い、心ある人もいたことを知りました。そして、自分を守ってくれる親や国などがなくなった時にでも、人間が希望を失わずに生きていくとはどういうことなのかと考えるようになりました。

早川さんがアフリカで出会った人々は自然と共に生き、支え合い、許し合い、分かち合っ生きていました。特に、ケベラスラムにはどん底の貧困の中、何があっても生きることが諦めない明るく強いエネルギーを持った人々がいました。その力は「命の光」と思えるものでした。

スラムの中には、親の死後引き取られた先で虐待を受けたり、売られて働かされたり、路上で暮らしチヨコラー(拾って生きる子どもたち)になった子どもたちがたくさんいます。親がいてもちゃんと養育されていない子どももいます。リリアンはスラムで生まれ育ち、両親亡き後17人の兄弟の面倒を見ながら、そんな子どもたちを救おうと、20代の初めに長屋の一室で寺子屋を始めました。「大変な時こそ大丈夫と言ってみる



早川さんとリリアン、マゴソスクールの子どもたち

とそこから一步先に進める」とリリアンは言いました。彼女と早川さんたちが手作りでつくってきたこの場所は、今、仲間と一緒に人生をもう一度やり直せる「家」マゴソファミリーにもなっています。

12歳くらいまで学校に行けずにいた子どもたちが勉強を続けていくのは大変なことですが、夢があるからみんなで支えあって頑張っています。立派に成長した卒業生たちはマゴソOB・OGクラブを作って、「世の中を変えるのは僕たちだ」と後に続く子どもたちのためにスクールの運営に携わっています。

アフリカの人々が、自分の物差しで生き方を決め、過ちを許し違いを認め合って、より良く生きていこうとするところに人類と地球の未来への希望があると、早川さんは感じています。



# 第1回 国際理解講座 子どもたちの未来の話をしよう



01



02



03

- 01 楽しい給食の時間
- 02 校庭に並ぶ幼稚園の子どもたち
- 03 日本で使われなくなった小学校の机と椅子がある教室

とわり 永遠瑠 マリールイズさん

1965年生まれ。高等専門学校で洋裁の教師をしていた時、青年海外協力隊のカウンターパートナーとなり1993年来日、福島文化学園で研修。翌年2月に帰国。同4月ルワンダ内戦勃発。留学生として家族揃って12月に再来日し、福島に住む。2000年「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げ、現在は理事長。東日本大震災で被災し、今も仮設住宅で「ルワンダカフェ」を開いている。2013年日本国籍取得。各地で平和や教育の大切さを訴える講演をしている。



### ウムチョムウイーザ学園

ルワンダの首都キガリにある幼稚園、小学校。民族・宗教・政治思想にとらわれず、戦争で傷ついた子どもたちや貧しい家庭の子どもたちも学べる場である。運営は現地 NGO・ADESOC が行っており、生徒数は約280人。「ウムチョムウイーザ」とはルワンダ語で「良い文化」という意味。

誰もが一緒に学べる学校をつくりたいという思いはマリールイズさんが以前からずっと持っていたもので、日本で支援者を得て今の活動を始めました。学校を建てる土地を探している時に会った子どもが言った「大きくなるまで生きていられると思う?」という言葉に背中を押され、必ずいつかこの子どもたちに将来の夢を言わせてみせると、資金集めや環境整備に精を出しました。そして、授業を始めて一カ月後、自分の夢を語る子どもが現れた時、間違いなく教室には夢があることを実感しました。夢が生まれるのは平和だから。戦いのない世界にするため、また将来について考えることができるのは教育があってこそ、とマリールイズさんは言います。

マリールイズさんが子ども3人を連れて難民キャンプに逃げ、内戦を生き延びてこれたのは、さまざまな奇跡との出会いがあったからでした。難民キャンプで、日本語で書いた SOS のファックスを日本へ送ろうとしていた時、支援に来ていた AMDA (アジア医師連絡協議会) の日本人医師と出会いました。そして通訳の仕事を得ることができ、来日する

内戦時の虐殺はルワンダの悲しい歴史です。服役後の加害者の償いと社会復帰の問題、歴史を正しく伝える教育の方法など課題はいろいろありますが、被害者側・加害者側双方の子どもが苦しまないように考えていこうとしています。過去のつらい出来事にも目をそらさずに向き合って語り合うことに国中で取り組んでいるのです。

「出会いには次につながる力があります。出会いによって開かれた新しいページを白紙のままにしないように。主役は私たちです」。こう語るマリールイズさんの夢はストップしません。前進あるのみ!



音楽や美術による情操教育も行っている

## 2 ユニセフ七夕セミナー

日時 7月2日(土)  
会場 レクザムホール(香川県県民ホール)  
参加者 57人

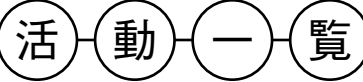
四国・中国・近畿地方の7つのユニセフ協会を中心に行われる合同研修会に、兵庫県ユニセフ協会からは8人が参加。UNICEF 東京事務所代表 木村泰政さんの講演「持続可能な開発目標 (SDG s) と私たちの活動」を聞き、その後ワークショップをしました。



# Activities File 活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2016年5月～9月



Activities List

### 学習会一覧

月日	訪問先	対象	人数	備考
6月 3日	英語同好会(西宮市)	大人	20	訪問
6月13日	神戸市立有瀬児童館	小学生1～4年	42	訪問
8月 5日	夏休みわくわくスペシャル(芦屋市)	小・中学生	8	訪問
8月24日	京都大学グローバルスタディツアー	大学生	7	受入
8月30日	あさひ児童館(神戸市)	小学生1～6年	78	訪問

### 地域活動一覧

\*ユニセフ紹介と支援物資の展示

月日	イベント名	
5月14日～15日	コープこうべフェス コーピー・ビレッジin万博	*
5月28日	第2回国際理解講座	
7月 2日	ユニセフ七夕セミナー	
7月23日	西宮市メダカの学校	*
7月23日	第3回国際理解講座	
7月29日～8月2日	福島の子ども保養プロジェクトin よしまキャンプ	
8月 6日	ユニセフ国際セミナー	
8月 9日	三木緑が丘コープ委員会平和のひろば	*
8月19日	コープこうべ第6地区平和のつどい 地球のステージ	
8月25日	コープこうべ第4地区平和のつどい	*
9月 6日	南スーダン現地報告会	

### 募金していただいた学校・団体

月日	対象	備考
5月11日	姫路城を守る会	外貨受取

## 3 福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ

日時 7月29日(金)～8月2日(火)  
会場 神戸YMCA余島野外活動センター(香川県小豆島)  
共催 コープこうべ、神戸YMCA、兵庫県ユニセフ協会

今年で5年目になるこのキャンプは、福島からの子どもたちや学生・社会人リーダー、コープ(こうべ・かがわ)の組合員等、総勢100人を超える参加で行われました。カヤック、海水浴、魚釣り、手作りウォーター 슬라이ダー、アーチェリー、クラフト等の魅力的なプログラムを自分で選び参加する子どもたち。初めて出会う友だちと共に過ごす時間は、時には戸惑いや困難も多かったと思いますが、新しいことへのチャレンジは、きっと子どもたちの大きな力になったことでしょう。大きな自然に囲まれ、勇気をもって生きていくことを体験の中から学ぶ4泊5日となりました。



## 4 コープこうべ第6地区平和のつどい 地球のステージに参加

日時 8月19日(金)  
会場 加古川市民会館

会場ロビーでは、国際協力団体の若者によるフェアトレード商品の販売、灘校生によるポスターセッションがありました。



兵庫県ユニセフ協会は、今年で4年目になる岩手県の幼稚園・保育園にチュリーツの球根を贈るための募金活動も行いました。

## 1 コープこうべフェス コーピー・ビレッジ in 万博に参加

日時 5月14日(土)～15日(日)  
会場 万博記念公園

青空のもと、親子連れでにぎわう会場にユニセフもブース出展をしました。実際に水を入れたネパールの水がめ運び体験やクイズなどでユニセフの活動を紹介しました。



5

## 第2回国際理解講座 「つながる支援 ガーナと東北」

講師 菅野 芳春さん（青年海外協力隊 OB）  
日時 5月28日（土）  
会場 コープこうべ生活文化センター  
参加者 47人

菅野さんの講演は東北支援に入られてから当ユニセフの講座では2回目となり、今回も真摯なお人柄から発せられるお話で2時間が短く感じられました。その言葉に参加した高校生も歳を重ねた我々もいい刺激を受けました。

活動の原点は、多感な高校生の時にアフリカの貧困の映像を見て、「いつかアフリカに行って井戸掘りと畑作りをしたい」でした。その後の大学でも勤務先でも「60歳の自分を振り返った時どう思うか」という青年海外協力隊への思いが頭から離れず、39歳で最後のチャンスと肝に銘じて奮起し、見事ガーナ行きを達成されました。理科科教師をしながら「二度と無いチャンス、一日一日が真剣勝負、自分にできることは何でもしよう」と入隊期間2



年間では諦められず、教育支援・診療所建設・井戸・電柱の敷設などの支援を続けました。その信念はサハラ砂漠に水をまくようなことだが何とかしたい。互いに違いを認め合うこと。お互いさまと受け入れていくこと。文化・人種・習慣の違いが問題では無い、受け止め生きていくこと。見て見ぬふりをしないこと。見たなりの関心を持つことなど、菅野さんの言葉に私たちが忘れていたことを気付かされます。高校生には「今の時代、頑張らなくていいよ」が、まかり通っているが、高校生時代ぐらいはガンガン頑張らなくてはいけないなどと、我々にもハッとさせられる厳しい言葉でした。東北支援も9月でめどをつけたいそうです。そして、「またガーナに行きたい」で、締めくくられました。（酒井 登）

6

## 第3回国際理解講座 「最新取材映像を中心に見る イラク、シリア国内は今」

講師 玉本 英子さん（ジャーナリスト）  
日時 7月23日（土）  
会場 東播磨生活創造センター かこむ（加古川市）  
参加者 63人

シリアやイラクにまたがる地域で15年以上取材してきた玉本さんだからこそできる現地の話を、映像を見ながら聞きました。イスラム国（IS）が支配しているシリア北部地域はクルド民族の居住地です。主要都市コバニは2014年の襲撃以来、町のほとんどが破壊されました。2015年ISが撤退。トルコに逃れていた人々が帰ってきましたが、破壊された町には住めません。ヨーロッパには、1980年代からクルドの人々が難民として渡り、つくってきたコミュニティがあります。頼れる親戚がいる、近い、それに言葉や食べ物に困らないコミュニティがある。これらの理由から、人々は難民になり、ヨーロッパを目指しています。イラクは多民族多宗教の国。2014年ISは悪魔崇拝だとして北

西部のヤズディ教徒居住地域を襲撃。逃げ遅れた人々は、イスラム教に改宗しない男性は殺害され、女性は拉致され奴隷としてISの戦闘員と強制結婚させられました。その数、数千人以上。2人の子どもを連れてISから逃げてきた20歳の女性は、今もトラウマに苦しみながらドイツでメンタルケアを受けて暮らしています。「さみしい。帰りたい」と話しながらも、子どもたちの未来を思い、ドイツで生きて行こうとしています。

取材映像には、拘束されたIS戦闘員へのインタビューもあり、紛争や戦争の波にのまれた若者の姿がそこに見えました。最後に玉本さんは、遠い国のことと思わないで、何が起きているのかを知り、苦しんでいる人に心を寄せてほしい。そうすることが戦争や紛争をやめさせる1つではないかと訴えました。加古川で初めて開かれた講座は、中学生をはじめ学生の参加も多く、関心の高さがうかがわれました。



## 50号に寄せて

2002年の創刊号から足かけ15年、おかげさまで今号で第50号を迎えました。読者の皆さま、原稿をお寄せいただいた皆さまのご支援とご協力に感謝申し上げます。

Wishバックナンバーに目をやりますと、いかに多くの方が兵庫県ユニセフ協会の活動を支え、今につながっているかがよくわかります。現在は、年3回、わかりやすい誌面づくりに励んでいます。これからもよろしくお願いたします。（広報チーム）



## ユニセフ募金 Donations For Unicef

### ■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

### ■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ネパール大地震	ネパール K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ干ばつ	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道支援 K1-280 兵庫	00190-5-31000

\*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会  
\*手数料免除

### Volunteer

## あなたもボランティア!

### ボランティア募集中

「できる人が できる時に できることを」  
をモットーに活動しています。ボランティア  
連絡会は原則第4土曜日に行ってい  
ます。お気軽にご参加ください。

# Wish vol.50

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2016年(平成28年)9月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町5-3-18

コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605 (平日10:00～16:00)

FAX：078-451-9830

●最新の情報はホームページで

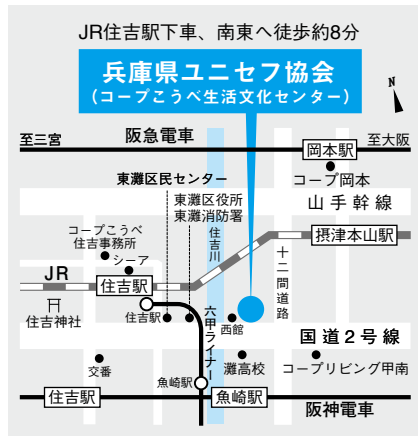
<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ

検索



●兵庫県ユニセフ協会への案内図



## Join Us 主催イベント

講師の都合により予定を変更する場合があります。  
詳細はHPをご覧ください。

## 2016年 ユニセフ イベント・講座のご案内

どなたでもご参加いただけます。

会場はいずれもコープこうべ生活文化センター

参加費  
無料

日時	テーマ・講師
9月21日(水) ～28日(水)	<b>ユニセフ写真展</b> 「アグネス・チャンさんが見た、一筋の光 南スーダン」
9月24日(土) 14:00～16:00	<b>ユニ・ボラ塾①</b> 「ネパールにおける人間の安全保障の現状と課題」 講師：帝塚山大学法学部教授 末吉洋文さん
10月22日(土) 13:30～15:30	<b>第4回国際理解講座「わたしにできること」</b> ～国際協力の現場を体験して～ 講師：神戸市外国語大学4年 延岡由規さん
11月26日(土) 14:00～16:00	<b>ユニ・ボラ塾②</b> 「難民の時代に生きるということ」 講師：帝塚山大学法学部教授 末吉洋文さん
12月3日(土) 13:30～16:00	<b>第5回国際理解講座</b> 「人生を変えるアフリカ」 講師：ジャーナリスト 大津可郎さん 拓殖大学国際学部教授 甲斐信好さん
12月23日(金・祝) 11:00～13:00	<b>ユニセフ ハンド・イン・ハンド街頭募金活動</b> 会場(予定)：姫路、加古川、元町、西神中央、住吉、西宮北口、伊丹 一人ひとりの力が大きな力となる募金活動、世界の子どもたちへ笑顔を届け ましょう。テーマ：栄養不良から小さな命を守ろう

※国際理解講座は、日本国連協会兵庫本部との共催で、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金の助成を受け行います。

お申込み、お問い合わせ先

事務局 078-435-1605

## News お知らせ

### コープこうべ第2地区 地球のステージ

日時 11月26日(土) 10:00～12:00  
会場 西宮神社会館

### 第15回ユニセフのつどい

日時 2017年3月18日(土)・19日(日)  
会場 コープこうべ生活文化センター

## Booth 出展参加

10月22日(土)	姫路市医師会看護専門学校 文化祭
10月29日(土) ～30日(日)	兵庫県ふれあいの祭典 (丹波の森公苑)
11月5日(土)	にしのみやふるさとウォーク 2016
11月6日(日)	2016 ユニセフカップ西宮 国際ハーフマラソン

出展ブースでは、支援物資の展示、クイズ、  
ゲーム、資料の紹介などを予定しています。

2017年は兵庫県ユニセフ協会設立15周年の年。いろいろな記念イベント  
を予定しています。

## ユニセフ出前学習会



学習会の講師派遣を行っています。  
お気軽にお問い合わせください。

## ユニセフ ひょうご サポーター

### 賛助会員募集中

賛助会員となって、  
兵庫県ユニセフ協会の活動を支えて  
ください。お申し込み、お問い合わせ  
は事務局までお願いいたします。

